（別紙１－１）《会派用》　　　　　　　　　　　　　　令和４年１０月２０日

狭山市議会議長
　太田　博希　　　　　　　様

会　派　名　　　自由民主党
代表者氏名　　　千葉　良秋　[redacted]

研　修　会　報　告　書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。

受付
第 467 号
4.10.20
狭山市議会

（別紙７－１）《会派用》　　　　令和４年１０月２０日

代　表　者　　千葉　良秋　　様

研修者（代表）氏名　千葉　良秋　[redacted]

研　修　会　報　告　書

このことについて、次のとおり報告します。

1　期　　間　　令和４年１０月１２日　～　令和４年１０月１４日（２泊３日）

2　研 修 会 名

全国都市問題会議

3　研修会主催者

全国市長会

4　開 催 場 所

長崎市

5　研修会参加人数　３　人

参加者は次のとおり

千葉　良秋、田村　秀二、新良　守克

6　研修会スケジュール

10 月 13 日：基調講演、主報告、一般報告

10 月 14 日：パネルディスカッション

7　研修会概要

別紙の通り

（別　添）

調　査　概　要

【議題解説】

個性を生かして「選ばれる」まちづくり

～何度も訪れたい場所になるために～

継続的・定期的に訪れてもらうことの意義とは、地域以外の人の多様な関わりがもたらすものであり、地域の住民にはない発想が生まれ、地域創生の創発的解決に結びつく。継続的・定期的に訪れてもらう機会や仕組みづくりが重要。「何度も訪れたい」場所になるために地域特有の資源の活用、交流・参加の機会づくり、新しい働き方の場を提供することが必要である。

【基調講演】株式会社ジャパネットホールディングス

代表取締役社長　兼　SEO　　高田　旭人　氏

１，ジャパネットと地域創生

ジャパネットグループでは、通信販売事業に並ぶ２本柱として、スポーツ地域創生事業を掲げている。プロサッカークラブ「Ｖファーレン長崎」の運営を通して、事業方針として掲げてきた「見つける」「磨く」「伝える」を生かすことができると考えるようになった。

２０２０年には長崎初のプロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」を立ち上げた。現在、長崎駅前にスタジアムアリーナや商業施設、ホテル等で構成する街づくり「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め2024年の開業を目指している。

２，行政と民間の役割の違いについて

長崎を盛り上げたい・・・そのために人口を増やしたい・・・経済を活性化して地域の魅力を広く伝えたい・・・・私たち民間企業も、行政も目指すゴールは同じだと思うが、そこへ行きつくための手段や役割は大きく異なると考えている。行政は誰一人躓かない福祉を充実させ、皆が平等に恩恵を受けられる環境づくりを行う。そのため私たちは多くのチャレンジができることはありがたい。しかし、駅前にスタジアムを創るとなると陸上競技はできるかとか、VIP席はどうするのか等、全方向の配慮が必要となり本当にすべきことがぼやけてきてしまう。一方、民間企業ではどうでしょう、民間企業の役割は社会の「幸福の最大化」であると考えている。VIP

席は高価なものですが素晴らしい食事やサービスが提供でき収益を確保することもできる。またゴール裏の席は比較的安価に提供することができ臨場感を感じられる。良いと思ったことを最短の意思決定で取り入れられる事が民間の最大の特徴である。公平性に左右されない民間企業だからこそ行政にはできない思い切った取り組みをする必要があると考えている。

3、長崎スタジアムシティプロジェクトへの思いと目指すところ

長崎をはじめとする転出超過の街には何の要因があるか、「遊ぶところがない」「やりたい仕事がない」「都会の方がかっこいい」様々な声が聞かれるが、私は決してそう思っていない。透明度の高い海、新鮮な空気、魚介類をはじめ美味しい食材、島の数は日本一でかつてはオランダとの交易で栄え、異国情緒も感じることができる。祭りやイベントも多く魅力的なまちであると感じる。灯台元暗しと言うように、実は目の前に素晴らしいものが眠っている。磨きをかけることにより輝きを増し、より多くの方の目に止まり「長崎は楽しそう」「長崎に行ってみたい」と思ってもらえると考えている。それこそが「長崎スタジアムシティプロジェクト」を行う理由だ。前例のない未知の世界に飛び込むことに不安はあるが、民間企業としてリスクをとり本気で進めることで、地方でもできるという実績をつくり、他の地域にも波及していく世界をつくりたい。

【主報告】

長崎市の魅力あるまちづくり
（長崎市の紹介取組など）　　　　長崎県長崎市長　田上　富久

【一般報告】

・地域との新しいかかわり方・関係人口
　　島根県立大学地域政策学部准教授　田中　輝美
・ビジョンを生かしたまちづくり
　～「選ばれる山形市」をめざして～　　山形県山形市長　佐藤　孝弘
・「交流の産業化」を支える景観まちづくり
　～長崎市景観専門監の取り組み～
　　一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事　高尾　忠志